

各種住居床に対する心理的序列感に関する研究

稲吉淳*1, 久保田一弘*2, 直井英雄*3

A study on the sence of order to floor in dwellings

Inayoshi Jun, Kubota Kazuhiro and Naoi Hideo

■研究目的■

住居内の床材に対して我々は「畳が最も上位で、長尺塩ビシートやプラスチックタイル（以下Pタイル）は、かなり下位である。」などと無意識のうちにも漠然とした序列を認識している。これまで当研究室では屋内外の床の格について、この様な序列の感覚を定量的に捉えることを試みてきた^{1)~7)}。今回は靴を脱いで利用する床材に対して複数の分析を試み、その心理的序列感を定量的に捉えるとともに分析方法による違いについても検討を加えた。

■研究方法■

(1) 対象とした床

靴を脱いで利用する一般的な屋内床を想定し、じゅうたん・板（フローリング）・磁器系タイル・長尺塩ビシート・Pタイル・畳の6種類の床材を対象とした。

(2) 被験者

本学建築学科学学生20人を被験者とした。また、分析方法による違いを正当に比較するため、全ての方法を通じて共通の被験者の集団とした。

(3) 分析方法

① 床の格の上下に関する一対比較評価

6種類の床材に関し、各々他の5種類との格の上下の比較を一対比較の手法によりアンケート調査した。アンケートは、「格が非常に上だと思う」を5点、「格が非常に下だと思う」を1点の5段階で評価した。

② 床上で行う行為の抵抗感に基づく数量化I類分析

ヒトの心の抵抗感という質的な情報を量的に説明するため、数量化I類による分析を行った。6種類の床材を対象に、それぞれ表1の7種類の行為を公共施設と家で行った場合の抵抗感を、「抵抗がない」を4点、「抵抗がかなりある」を1点の4段階で評価した。尚、「消しカスを捨てる」の抵抗感他他の行為と評価の観点の逆方向であるため、評価点も逆方向となるよう与えた。

③ 床に対する評価要素に着目した数量化I類分析

床材に対する評価を量的に説明するため、具体的な形容詞を用いて数量化I類による分析を行った。6種類の床材を対象に、それぞれ6種類の代表的と思われる評価要素の形容詞（高価である、清潔感がある、見た目が良い、耐久

表1 行為の抵抗感に基づく分析で対象とした7種類の行為

座とした物を食べる	消しカスを捨てる	布団を敷く	

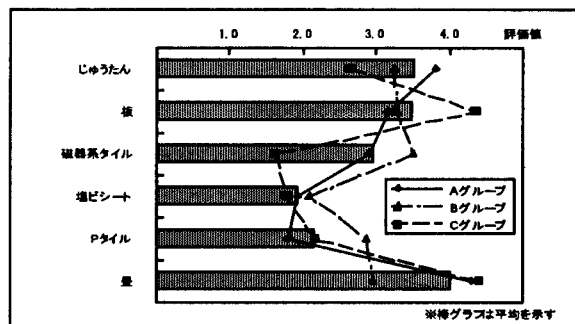


図1 一対比較による床の序列評価結果

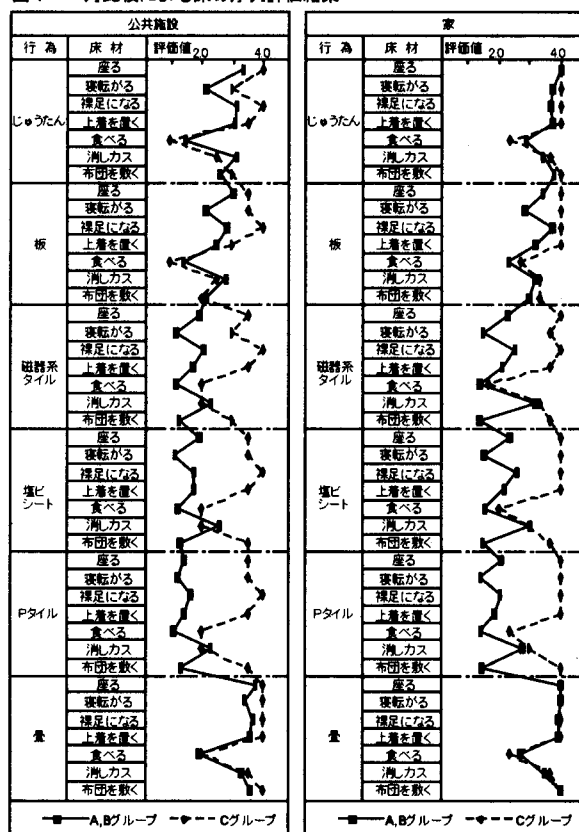


図2 行為の抵抗感に基づく数量化I類分析結果

性がある、伝統的である、感触が良い) に対して、「そう思う」が4点、「そうは思わない」を1点の4段階で評価した。

■結果及び考察■

(1) 一対比較による床の序列評価結果

6種類の床材の一対比較の結果を図1に示した。ここでは、畳の格が最も高い評価を集めており、じゅうたん及び板の格がほぼ同じで、磁器系タイルがそれに続いた。一方、長尺塩ビシートとPタイルの格に対する評価が最も低く、Pタイルが次に低い評価であった。前年度と比較すると上位4種類は同順位であることが判った。尚92年から95年度の調査においても、上位3種類の結果は変わらなかった。また今回は全体の4分の1程度の被験者は床材の格に大きな差を感じていないことも判った。

(2) 行為の抵抗感に基づく数量化I類分析結果

その結果を図2に示した。床材・行為・場所を、いくつかのカテゴリーに分けて分析した結果、家における行為の抵抗感は一対比較の床材の格の順位に概ね比例していることがわかった。また家に比べ公共施設の床材は全体に抵抗感が大きくなり床材による違いが出にくくなっていた。

(3) 床に対する評価要素に着目した数量化I類分析結果

図3に示すように、特に見た目の良さ、次に清潔感が材の評価を左右し、逆に伝統と価格が材の評価にあまり関係していないことが判った。一対比較の結果に比べ磁器系タイルが、畳や板に続いて3番目と高い評価を得ている点の特徴的である。また評価要素ごとに床材の順位をみると、高価・清潔感・見た目・耐久性の4項目においては、じゅうたんの評価が低い(図4)。耐久性の序列に関しては一対比較の序列と大きく異なり、耐久性が格の序列との関係が薄いことが判った。

(4) 上記3種の分析結果の比較

一対比較の順位と行為に対する抵抗感から導かれた材の序列は、長尺塩ビシートとPタイルの順位が逆転しているもののそれ以外はほぼ一致した。しかし、形容詞を用いた評価要素の数量化I類の結果においては、磁器系タイルが畳や板と同様に高い順位に位置し、じゅうたんが4番目にきている。これは磁器系タイルの見た目が美しく清潔な感じが高い評価を引き出したもので、今回代表的と考えた6項目の形容詞が磁器系タイルと相性がよく、じゅうたんとは相性が悪いものであったように思われる。また、感触や伝統が格の序列に関与する事項であろうと考えられる。

■まとめ■

本研究により、各種床材の心理的序列感について次のような知見が得られた。①得られた序列は、過去の研究と概ね一致するものであった。②総合的な判断で行われた一対

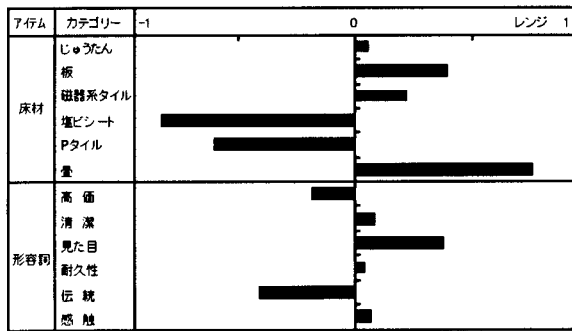


図3 評価要素(形容詞)に着目した数量化I類分析結果(平均)

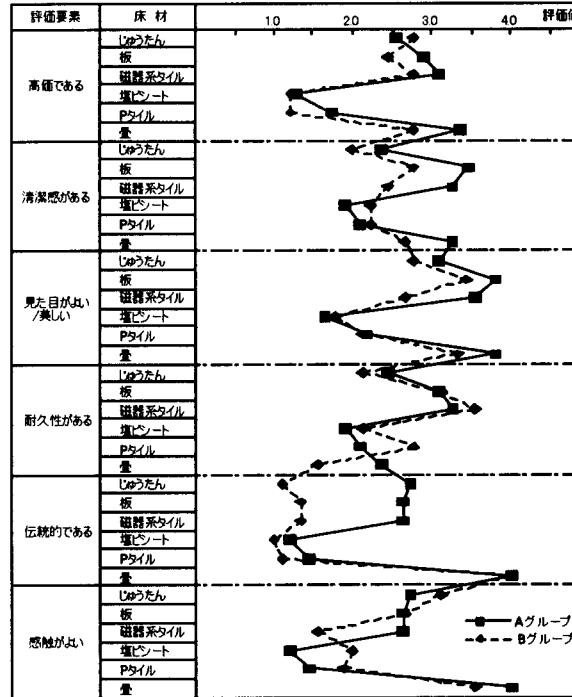


図4 評価要素(形容詞)に着目した数量化I類分析結果(評価要素別)

比較の結果と、行為の抵抗感に基づく数量化I類の結果とが類似であったことから、ここで得られた結果は比較的安定したものであると考えられる。③床材の評価要素に焦点をあてた分析からは格の序列と評価要素との関係が概略見つけられた。

なお、この結果は被験者とした人達の心理特性による所が大きいものであることを認識しておく必要がある。また、研究に際しては、高橋康代氏の多大な協力を得たことを付記する。

参考文献

- 1) 川村かお里・岩井今朝典・直井英雄: 仕上材料の違いによる住居床のヒエラルキー感に関する一分析: 日本建築学会大会学術講演梗概集1993年, E-1
- 2) 園光美代・岩井今朝典・直井英雄: 仕上材料の違いによる住居床のヒエラルキー感について(2) -ヒエラルキー感に関する追加検討および床段差との関係に関する検討一: 日本建築学会大会学術講演梗概集1994年, E-1
- 3) 矢島規雄・岩井今朝典・直井英雄: 仕上材の違いによる住居床のヒエラルキー感に関する研究一履物および姿勢との関係に着目して一: 日本建築学会大会学術講演梗概集1996年, E-1
- 4) 原朝子・岩井今朝典・直井英雄: 住居内面部位における浄・不浄感の序列に関する研究: 日本建築学会大会学術講演梗概集1997年, E-1
- 5) 町田大樹・直井英雄: 人体が接触する建築部位における浄・不浄感の序列に関する研究: 日本インテリア学会大会研究発表梗概集1998年
- 6) 高橋康代・久保田一弘・矢島規雄・直井英雄: 靴履き等で用いる床に対する心理的序列感に関する研究: 日本建築学会大会学術講演梗概集2005年, E-1
- 7) 矢島規雄・直井英雄: 各種住居床に対する心理的序列感の定量化に関する研究: 日本インテリア学会論文報告集2005年

(*1 東京理科大学大学院・修士課程 *2 同捕手・工修 *3 同教授・工博)